

令和5年度 山形県教育センター 調査研究

「ICT利活用による学校教育の質の高まりに関する研究」 の報告

総括	主任指導主事	石黒 吉寛
研修課	指導主事	小林 福太郎 佐藤 勝治
研究・情報課	指導主事	●菅原 航平 ◎笹原 智也 本宮 康寛 金野 重元 鈴木 孝司 大沼 康平
特別支援教育課	指導主事	伊藤 綾
教育相談課	指導主事	佐藤 勝

●：主担当 ◎：副担当



国内外の様々な動きによる一人ひとりのウェルビーイングの実現、Society 5.0の実現、GIGAスクール構想の実現、山形県ICT教育アクションプランの実現を背景に、本研究では児童生徒の個別最適化された学び、協働的な学びを実現する一つの手段としてICT利活用に焦点を当てる。

令和5年度は県内小・中・特・高や他県のICT活用の現状を把握すること等で、本県での教科や校務等といった学校教育における今後のICT活用の可能性を探ることを目的とした。

※山形県教育センターホームページ「ICT活用・情報教育」 <https://www.yamagata-c.ed.jp/ICTutilization>

全校種等における研究

各機関との連携
視察や助言等

研究と研修の往還

県立高等学校におけるICT活用

- 県ICT教育推進拠点校 4校公開授業と校内研修
- 校内ICT教育推進担当者研修

教科におけるICT活用

- 教育局義務教育課「グローバル化に対応する英語教育の推進」事業と連携
- 山形大学附属中学校視察 学習者用デジタル教科書活用

特別支援教育におけるICT活用

- 新庄養護学校、ゆきわり養護学校の校内研究と連携
- 教育局特別支援教育課と連携 全校ICT活用授業報告掲載

教育相談・不登校対策におけるICT活用

- 福島県不登校児童生徒支援センター roomF 視察
- 広島県不登校支援センター SCHOOL “S” 視察

その他：教育データ利活用

- 【来年度】GoogleWorkspaceforEducationPlus等による教育データ（スタディログ、アシストログ等）利活用
高校教育課教育デジタル化推進室と連携、利活用の検証等をセンターで実施等



※詳細は本センターHP「ICT活用・情報教育」(<https://www.yamagata-c.ed.jp/ICTutilization#frame-l96>)を参照


※事例紹介やICT活用4次元モデルを用いた授業づくり演習等で研究内容還元

○初任者研修	小学校	50分
	中学校	50分
	特別支援学校	120分
	高等学校	100分
	栄養教諭・養護教諭	90分

○5年経験者研修 栄養教諭 90分

○中堅教諭等資質向上研修
栄養教諭 90分



ICTを活用した授業デザイン		番号 氏名	2	    		一
前日(授業当日)前 おなじく等 コマツツン制作(おひなごころの日記) 4部作(1日 お昼と1日 お昼と1日)		連	番号 氏名		活用 度	  
ICTを活用した授業デザイン		建築法規 校舎は建築基準法に合致しているのか		ICTを活用する場面 (真似してできるICT活用)		
時間	前日の授業 とに授業 伝え、注	時間	学習活動			
導入	実際に制 自働を達 は何をし	導入	・ 検査員役になって、校舎を実測し 建築基準法に準じているかを確認 する、という授業の趣旨説明			
展開	次の時間 また、終 場合はど	展開	・ 実測 ・ 調査報告書の作成 ・ 調査結果の報告	  		
まとめ		まとめ	※法規に準じている場合 校舎の安全性を再確認する	  		



山形県教育センター ホームページ「ICT活用・情報教育」紹介

検索は「山形県教育センター」また <https://www.yamagata-c.ed.jp/> で

ICTを授業で活用したい・
ICT活用の校内研修任された・
ICT活用の考え方が分からない・



ご意見・ご感想は
<https://bit.ly/3uZydEw>



県内全校種ICT活用事例と授業動画

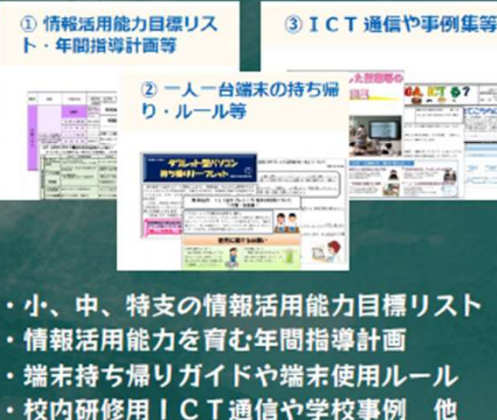


※ICT活用事例や動画に掲載されているGoogle for Education、Microsoft Teams、ロイロノート・スクール、SKY MENU Cloud、デジタル教科書に関する機能は関係者に許諾を得て作成しております。

研修に役立つ動画



学校で使えるICT活用資料

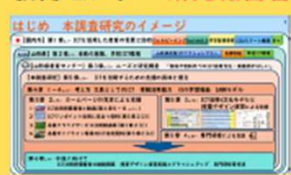


他にも！➡

ICT活用の考え方、
校内研修等出前サポート



教育センター研究報告書



ICTのセンター専門研修紹介

- ※令和5年度実施
- ・初級編（クラウドサービスごと）
- ・授業実践編
- ・校務実践編
- ・情報活用型プロジェクト学習編
- ・オンデマンド型研修

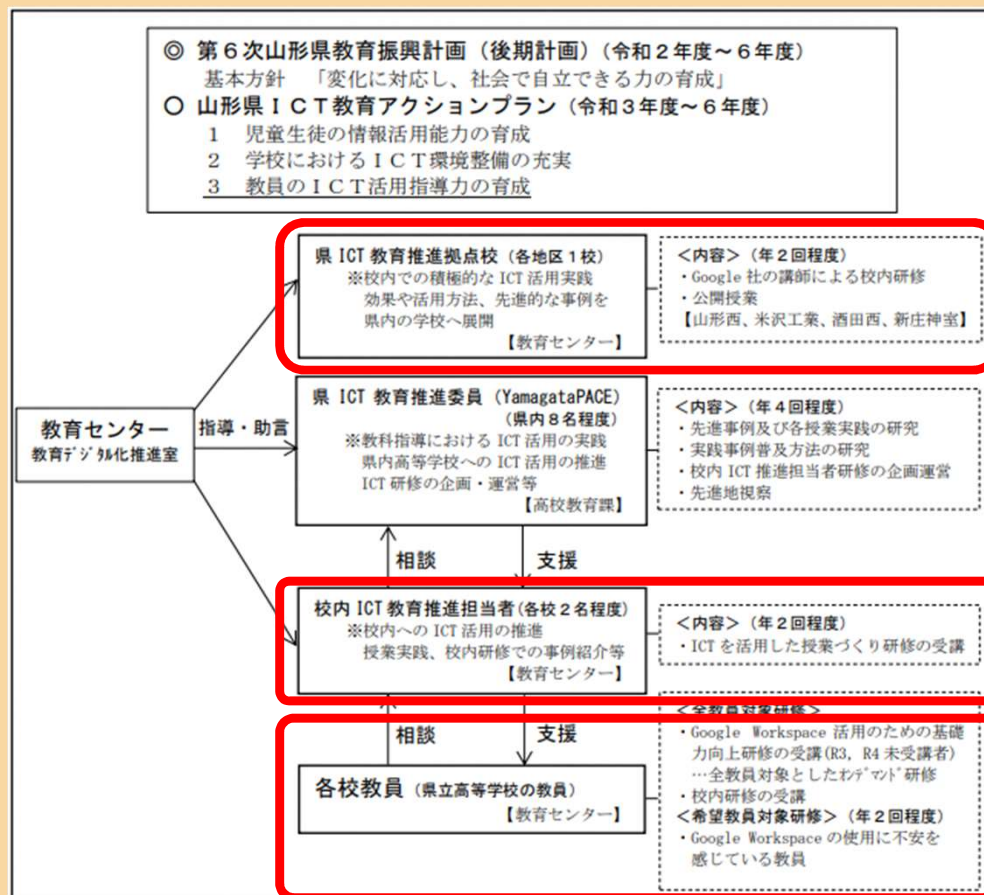
ICT利活用ガイドライン



山形県教育センター調査・研究「令和時代のスタンダードとしての学校ICT環境における児童生徒の学び」「ICT利活用による学校教育の質の高まりに関する研究」をもとに作成・掲載



「教員のICT活用指導力向上事業」(令和5年4月12日山教第5号)



高校の県ICT教育推進拠点校4校の運営

- ・ 校内研修実施
- ・ 小・中学校を含めた近隣校への公開授業

校内ICT教育推進担当者研修

- ・ ICTを活用した授業デザイン演習やICT活用実践発表・交流研修を2回実施

基礎力向上研修(Googleパートナー自治体プログラム)

- ・ オンデマンド研修1回
- ・ コア(基本)、アドバンス(応用)各1回実施

「遠隔授業の試行・研究」事務局員 主に配信側と受信側授業サポート



県立高等学校における ICT活用

○笹原 智也 指導主事（担当）

○佐藤 勝治 指導主事（担当）

金野 重元 指導主事

菅原 航平 指導主事

【県立高校】 県ICT教育推進拠点校 4校公開授業と校内研修

9

<概要>

- ・開発したICT活用4次元モデル等で、各校研修会のICTを活用した授業演習や講師を担当
- ・公開授業に向けた授業者とセンター指導主事が一緒になった授業作り、運営等を実施

<内容>

- ・県内4地区から1校ずつ選出し、研修や公開授業をととして積極的な活用の推進を図る。
- ・同地区の学校間で実践事例の共有、公開授業を実施しながら効果や活用方法について共有を図る。
- ・拠点校 ○山形西高等学校 ○新庄神室産業高等学校 ○米沢工業高等学校 ○酒田西高等学校

○山形西高等学校

【研修会】

- 7/27 『ICTを活用した授業デザイン』
- 2/5 『生成AIの仕組みと活用について』

【公開授業】10/17 地理総合・化学基礎・情報Ⅰ

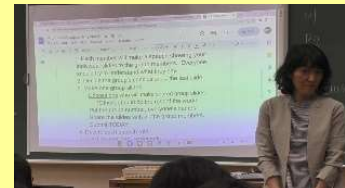
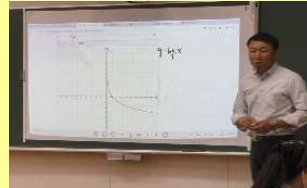


○酒田西高等学校

【研修会】

- 5/22 『アドバンス研修』
- 8/21 『ICTを活用した授業デザイン』

【公開授業】11/6 論理国語・数学Ⅱ・英語コミュニケーションⅠ・情報Ⅰ



○新庄神室産業高等学校

【研修会】

- 7/31 『ICTを活用した授業デザイン』
- 8/7 『活用力向上研修』

【公開授業】11/8 建築施工 12/14 農業と環境



○米沢工業高等学校

【研修会】

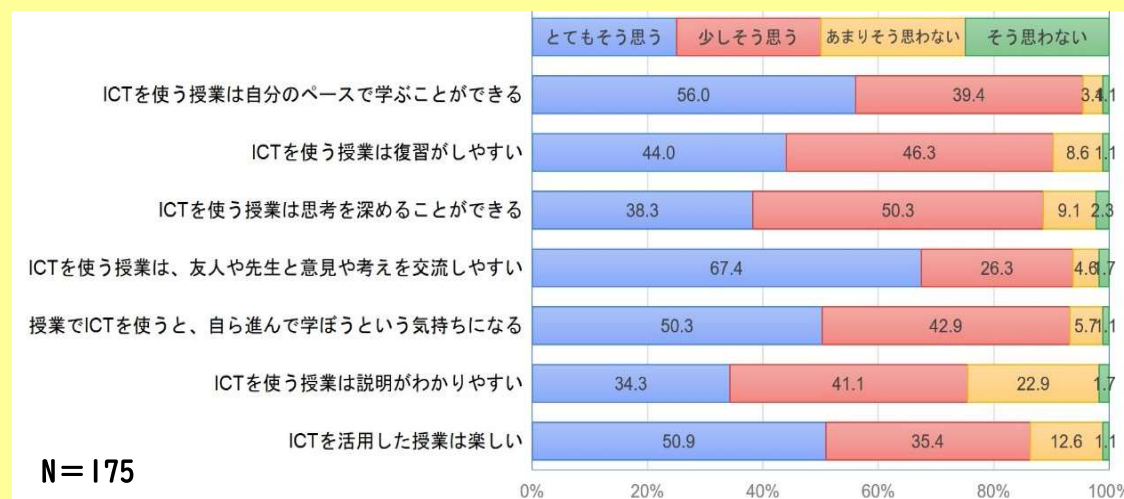
- 8/18 『ICTを活用した授業デザイン』
- 12/4 『Google Workspace for Education操作スキルアップ研修』

【公開授業】11/10 数学Ⅱ



<生徒アンケート結果(公開授業後)>

授業でICTを活用すると、自ら進んで学ぼうという気持ちになりますか。



＜概要＞

- ・担当者会に向けて、県ICT教育推進委員へ、開発したICT活用4次元モデル等で授業づくり演習等指導・助言
- ・担当者会の運営等を実施

＜内容＞

- ・各県立高校より2名（もしくは1名）を「校内ICT教育推進担当者」として選出
- ・年2回の研修会でスキルアップ、校内のICT利活用推進中心的役割を担う

○第1回 校内ICT教育推進担当者会

『ICTを活用した授業づくりについて』

※ファシリテーター：県ICT教育推進委員（YamagataPACE）

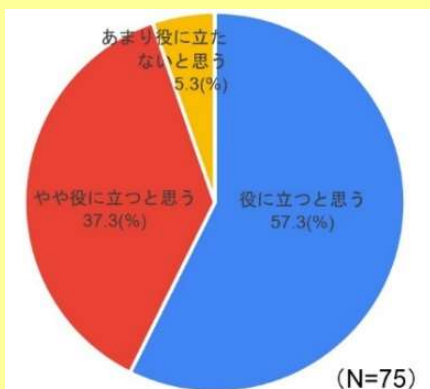
- ＜村山地区＞ 6月20日（火） 山形東高等学校
- ＜最北地区＞ 6月21日（水） 村山産業高等学校
- ＜置賜地区＞ 6月22日（木） 高畠高等学校
- ＜庄内地区＞ 6月23日（金） 酒田光陵高等学校

＜内容＞

- ・各校で実施してほしい校内研修会の内容を説明
- ・第2回校内ICT教育推進担当者会で活用事例を提供できるよう各校で研修会を実施し、成果を報告するよう依頼

＜アンケート結果(研修会后)＞

受講したことで、今後のICTを活用した活動に役立ちそうですか。



○第2回 校内ICT教育推進担当者会

『ICTを活用した授業実践、校務活用について』

※ファシリテーター：県ICT教育推進委員（YamagataPACE）

- ＜村山地区＞ 12月5日（火） 天童高等学校
- ＜最北地区＞ 12月6日（水） 新庄北高等学校
- ＜置賜地区＞ 12月7日（木） 米沢工業高等学校
- ＜庄内地区＞ 12月8日（金） 酒田東高等学校

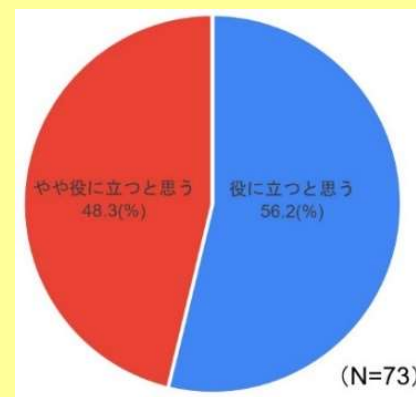
＜内容＞

※高校教育課教育デジタル化推進室実施

- ・各校より授業実践1例、加えて校務活用1例を提供
- ・地区毎に共有
- ・YamagataPACEのHP データ掲載、全県で共有

＜アンケート結果(研修会后)＞

受講したことで、今後のICTを活用した活動に役立ちそうですか。



【県立高校】ICT活用事例

拠点校公開授業や校内ICT教育推進担当者会より

11

掲載先 [山形県教育センター/ICT活用・情報教育 https://www.yamagata-c.ed.jp/ICTutilization](https://www.yamagata-c.ed.jp/ICTutilization)
[県ICT教育推進委員 YamagataPACEサイトの各校の実践事例 https://sites.google.com/yamagataps.jp/yamagata-pace/](https://sites.google.com/yamagataps.jp/yamagata-pace/)

【注意】YamagataPACEサイトは、Googleアカウントyamagataps.jpのみアクセス可能

ICT活用授業報告 県立酒田西高等学校1年 英語 英語コミュニケーションI

Is This Meat Real or Fake?



日 時：令和5年11月6日（月）6時間目
 場 所：県立酒田西高等学校
 対 象：1年3組
 授業者：猪口 知津子 教諭

1 主に活用した機器・コンテンツ

・1人1台端末 ・大型提示装置 ・Google スプレッドシート ・Google スライド ・Google Classroom

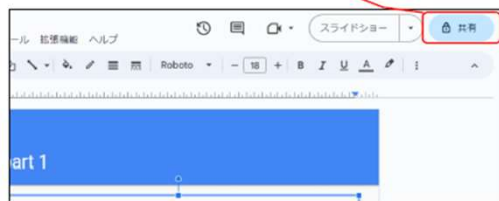
3 ICT活用ポイント

ICT活用ポイント1 C2 協働での意見整理

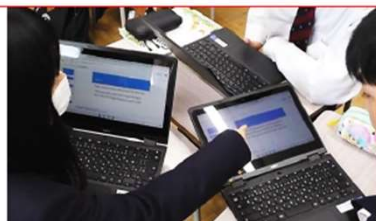
グループで一つの Google スライドを共有し、同時編集しながら、一人ひとりの要約や結論を比較、議論してグループ内の結論をまとめる。

- (1) Google スライドをグループのメンバーで共有。共有する際に、権限を「編集者」にする。
- (2) グループ内で、複数の意見・考えを議論して Google スライドに結論をまとめる。

(1) Google スライドをグループのメンバーで共有



(2) Google スライドを同時編集しながら、議論



ICT活用ポイント2 B1 個に応じる学習

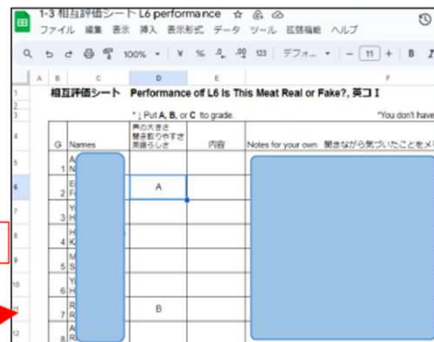
Google スプレッドシートの相互評価シートにお互いの発表について相互評価する。評価は「声の大きさ、聞き取りやすさ、英語らしさ」を3段階で評価、また「聞いて気づいた事」を記述する。相手グループの良さ等気づき、自分の発表の改善につなげる。

- (1) Google スプレッドシートの相互評価シートを Google Classroom から「課題」として生徒に配付する。
- (2) 次の時間以降に相互評価シートを見返して、相手の良さ等気づき、自分の発表の改善につなげる。

(1) 相互評価シートを、「課題」で Classroom から生徒へ配付



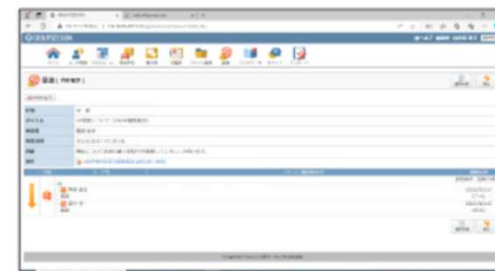
「各生徒にコピーを作成」で各生徒用のシートができる



ICTを活用した業務効率化実践事例【報告】

学校番号：32 学校名：県立鶴岡南高等学校

ICTを活用した業務	グループウェアを使った電子稟議（テスト運用中）
ICT活用のねらい （時間・コスト・人員など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化による紙代節約、印刷業務の軽減 ・回覧による時間ロスの削減等
ICTの活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェア「g-session」の「稟議」メニューを使う。伺いの資料を添付して、承認経路を決める。（関係教諭→主任→教頭2人or管理職3人等） ・決済が終わったらPDFデータにすることも可能
実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度9月よりテスト運用中。成果や課題等を確認後に令和6年度に致道館中学校・高校で生徒指導課関係の資料などに拡充して運用予定。
活用して感じた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・紙による稟議と比較して手間は大幅にかからない。作成方法も簡易でわかりやすい。 ・確認日付や時間が確認できる。 ・取り下げ等の処理も容易である。 ・起案者がどこにあるのかわからなくなる現象も起こりにくい。 ・紛失などの事故も起こらない。



＜遠隔授業の試行・研究 概要＞ （教育局高校教育課教育デジタル化推進室主管）

- ・授業者へのICT活用でのポイント等指導・助言と授業サポートを実施
- ・生徒・授業者等アンケート分析と考察

【概要】

- ・対象校 北村山高校、高畠高校、鶴岡中央高校の3校。
- ・試行授業 6科目（歴史総合、政治・経済、化学基礎、介護福祉基礎、総合スポーツ、スポーツⅡ）各2回実施。
- ・先進地視察 北海道、群馬県での実施状況を視察。

【成果】

- ・受講生徒のアンケート ⇒ 遠隔授業でも普段の授業と同様の学習活動ができていると感じている。
- ・試行授業の観察や生徒アンケート ⇒ 通信状況が遠隔授業に与える影響が大きい。
- ・機器の設置・調整は回数を重ねると教員負担感は減る。・学校間配信方式は、配信校・受信校ともに負担が大きい。

＜次年度に向けて＞

- ・評価に関する研究も行う必要があることから、スクーリングを取り入れ、複数回連続で試行授業を実施することでより実際の運用に近い形で試行授業を行う必要がある。
- ・配信拠点方式での実施検討。

＜生成A I 概要＞ （主に出席サポート）

- ・出席サポート等で生成AI活用の講義を実施

【概要】

- ・「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」（文部科学省令和5年7月4日）を踏まえ、生成AIの仕組みや活用にあたっての注意点、活用事例をまとめた。
- ・リーディングDXスクール生成AIパイロット校事業指定校酒田光陵高と連携、先進校事例収集、活用研修づくり実施。

【成果】

- ・収集した情報を元に出前サポート等で生成AI活用の講義実施。

【次年度に向けて】

- ・事例収集の継続。
- ・生成AI活用に関するオンデマンド講座作成。



教科におけるICT活用

○小林	福太郎	指導主事
鈴木	孝司	指導主事
大沼	康平	指導主事
菅原	航平	指導主事

<概要>

視察等をととしたICT活用授業報告作成とセンターホームページ掲載・普及



<内容>

視察 酒田市立平田小学校 11月16日、12月15日 酒田市立第二中学校 7月18日、9月8日、10月5日
掲載先 山形県教育センター/ICT活用・情報教育 <https://www.yamagata-c.ed.jp/ICTutilization>

ICT 活用授業報告 酒田市立第二中学校 2年 英語

Unit4 Homestay in the United States



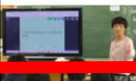
2 授業

(1) 本時の目標

ホームステイ先のウィルソン老夫婦に配慮した提案や表現方法を考え、英語で伝えあうことができる。

(2) ICT を活用した指導過程

ホームステイ先のある夜、テレビ等電子機器が一切無い状態で、ウィルソン老夫婦に、文化的背景に配慮しながら、何かしなかと提案するという状況を設定した。提案のために内容を振り返ったり、グループ活動を行ったりする。また、思考・判断・表現の記録に残す評価として、「What's important in a homestay?」の回答を収集する。

時間※1	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器等	情報活用能力※2
導入 5分	●1 minute talk その時の話題に応じて生徒同士で1分会話	楽しく積極的に英語で会話することが目的。文法的な指示や間違いの指摘は行わない。		
展開1 10分 一斉 A1	●電子機器が一切無い状況を自分事にするための内容の振り返り 	○ICT 活用ポイント1 全員の共通認識を促し内容の振り返りを行うため、指導者用デジタルブックで、強調しつつ音声で読み上げる機能を活用する。	・指導者用デジタルブック ・大型提示装置	A2①aステップ2 調査や資料等による基本的な情報の収集の方法
展開2 25分 協働 C1 C2	●ウィルソン老夫婦に配慮した提案のグループ活動 	○ICT 活用ポイント2-① 効率的な共有を図るため、ロイロノート・スクールで、グループで話し合ったことを整理して、まとめ、発表する。	・ロイロノート・スクール ・大型提示装置	B1①aステップ2 情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出す
まとめ 評価 10分 個別 B1	●今までの単元を通した活動や本時の活動を通して「What's important in a homestay?」に対する回答を作成・提出	○ICT 活用ポイント2-② 生徒の気づきを促したり、効率的な回答収集を図るため、ロイロノート・スクールで、個別に回答を作成させた後、特徴的な回答を共有する。	・ロイロノート・スクール ・大型提示装置 	B1②ステップ2 情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出す

3 ICT 活用ポイント

ICT 活用ポイント1 (指導者用デジタルブック) A1 教員による教材の提示

指導者用デジタルブックの読み上げている箇所を強調しつつ音声で読み上げる機能を活用することにより、教科書の内容の振り返りを効果的に行う。また、これを次のグループ活動につなげる。

(1) 指導者用デジタルブックを大型提示装置で表示させる。

(1) 大型提示装置による表示 ※下記は指導者用デジタルブックの読み上げ機能を表したもので、教科書本文とは無関係です。

Yamagata Prefecture is located on the Sea of Japan side of the Tohoku region, approximately 300 km north of Tokyo and about 3 hours away by the Yamagata Shinkansen bullet train. It is generally known for its cherries, which account for 70% of the total production in Japan, and its vivid four seasons.

Surrounded by the beautiful mountains of Asahi, which are . . .

読み上げている箇所が赤、これから読み上げる部分が青で表示され、強調している。

ICT 活用ポイント2-① (ロイロノート・スクール) C1 発表や話し合い C2 協働での意見整理

ウィルソン老夫婦に提案するために、グループで話し合う。そこで効率的な意見共有を図るため、1人1台端末で検索等しながらロイロノート・スクールでグループで話し合ったことを整理して、まとめ、全員で共有する。

- (1) 4人程度のグループに分かれ、適切な単語を検索したり、話し合いをしたりする。意見を整理し、ロイロノート・スクール上で提出する。
(2) 授業者がグループ毎に大型提示装置で読み上げ、配慮がある点を挙げながら、効率的な意見共有を図る。

(1) 班ごとの話し合い、意見整理



(2) 大型提示装置を用いた発表により、効率的な意見共有



ICT 活用ポイント2-② (ロイロノート・スクール) B1 個に応じる学習

今までの単元を通した活動や本時の活動を通して「What's important in a homestay?」に対する自分なりの回答を作成する。生徒に気づきを促したり、個別の考えを回答した後、特徴的な回答を共有し、自分とは異なる考えに触れる機会を作る。この回答により評価する。

- (1) 個別で1人1台端末で適切な単語を検索し、思考し、ロイロノート・スクール上で各自の回答を提出する。
(2) 授業者が、特徴的な回答をピックアップ、回答者に大型提示装置を用いて解説を促し、良い点を挙げながら、全体に気づきを促し、効率的な他者参照の機会を設定する。

(1) 個別で、検索し、思考し、提出



(2) 提出された回答を一覧表示、効率的な他者参照の機会



<概要>

視察等をととしたICT活用授業報告作成とセンターホームページ掲載・普及

<内容>

視察 山形大学附属中学校 10月10日

掲載先 山形県教育センター/ICT活用・情報教育 <https://www.yamagata-c.ed.jp/ICTutilization>



ICT 活用授業報告 山形大学附属中学校 2年 英語科

新出の言語材料を含んだ英文の概要を捉える

2 授業

(1) 本時の目標

新出文法（「疑問詞＋to不定詞」、「look, get/become＋形容詞（名詞）」、「SV00の文型」）が含まれている日常的な話題についての英文を読み、その概要を捉えることができる。

(2) ICTを活用した指導過程

時間※1	●主な学習活動	○ICT活用ポイント、留意点	使用機器等	情報活用能力※2
導入 15分 一斉 A1 個別 B1	●新出文法を含んだ6コマ漫画を読んで、新出文法の意味や働きに気付く。	○大型提示装置で、対話の実際の場面を視聴し、その内容について想像する。 ○学習者用デジタル教科書を用いて、生徒一人一人が立てた目標に合った音読練習に取り組む。	・1人1台端末（Chromebook） ・学習者用デジタル教科書 ・大型提示装置	A2②aステップ4 条件を踏まえて情報及び情報技術の活用計画を立てる手順
		ICT活用ポイント1 生徒一人一人が、自分の目標に合わせた音読練習を行うことができるよう、学習者用デジタル教科書のマスキング機能等を活用する。		
展開① 15分 一斉 A1 個別 B1	●新出文法を含んだ短い対話の内容を聞いたり、聞いた英文を書き取ったりして、新出文法の意味や働きを理解する。	○教室全体で教科書の聞き取り問題や、聞いた英文を書く活動に取り組む。 ○学習者用デジタル教科書を用いて、繰り返し英文を聞いて内容を確認したり、聞き逃した表現を再度確認したりする。	・1人1台端末（Chromebook） ・学習者用デジタル教科書 ・大型提示装置 ・指導者用デジタル教科書	A2②aステップ4 条件を踏まえて情報及び情報技術の活用計画を立てる手順
		ICT活用ポイント2 生徒が自分の課題に応じて、粘り強く学習に取り組むことができるよう、学習者用デジタル教科書を用いて、英文を繰り返し聞いたり、文字で確認したりする場面を設定する。		
展開② 15分	●新出文法を含んだ教科書本文の対話文を読み、	新出文法（「疑問詞＋to不定詞」、「look, get/become＋形容詞（名詞）」、「SV00の文型」）が含まれているまじりのある英文を読み、一語一語や一文一文の意味など特定の		

3 ICT活用ポイント

ICT活用ポイント1 B1個に応じた学習

1人1台端末内にインストールされた学習者用デジタル教科書を活用して、生徒一人一人が自分の音読の目標に合わせた音読練習を行うことができるよう、学習者用デジタル教科書のマスキング機能等を活用する。

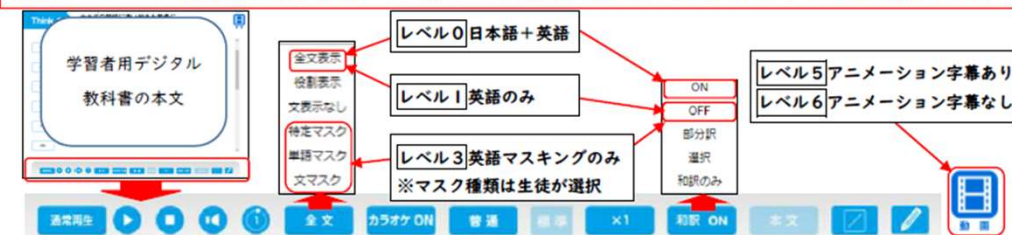
- 教室全体で一斉型の音読練習に取り組む。
- 指導者があらかじめ設定し、生徒ともに修正しながら日常的に用いられている音読練習のレベルの中で、生徒自身がどのレベルで音読練習に取り組むのかを決める。その際、その場面において目指すべきレベルを、指導者はあらかじめ生徒に提示しておく。
- 生徒は学習者用デジタル教科書を活用して、個別に音読練習を行う。その際、生徒は学習者用デジタル教科書の機能を活用し、個々の目指すレベルに応じて、語句や表現等をマスキングしたり日本語のみを表示したりしながら音読練習に取り組む。
- 教室全体で再度確認の音読練習を行う。

個々の目指すレベル設定例

レベル0	日本語＋英語
レベル1	英語のみ
レベル2	日本語＋英語マスキング (マスキングする単語は自由)
レベル3	英語マスキングのみ
レベル4	日本語のみ
レベル5	アニメーション字幕あり
レベル6	アニメーション字幕なし
レベル7	英語を見聞きしながら 同時通訳（日本語で）

※生徒の実態に合わせて設定

目指すべきレベルの設定例と機能の対応 ※一部のレベル紹介。組み合わせ次第で様々なレベルが設定できる。



ICT活用ポイント2 B1個に応じた学習

学習者用デジタル教科書を活用して、生徒が自分の課題に応じて粘り強く学習に取り組むことができるよう、学習者用デジタル教科書を用いて、英文を繰り返し聞いたり文字で確認したりする場面を設定する。

- 教室全体で一斉に聞き取りや書き取りの活動に取り組む。
- 学習者用デジタル教科書を活用して、聞き取ったり書き取ったりした内容を個別に確認する。また、よく聞き取れなかった内容や、書き取れなかった単語や表現等を確認したりするために、その部分に焦点化して繰り返し英文を聞いたり読んだりする。
- 教室全体で、聞き取った内容や書き取った英文の構成を確認する。



特別支援教育における ICT活用

○伊藤 綾 指導主事
本宮 康寛 指導主事
菅原 航平 指導主事

<概要>

視察助言等とおしたICT活用授業報告作成とセンターホームページ掲載・普及

<内容>

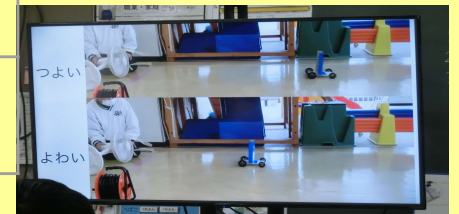
①県立新庄養護学校の実践 令和4年度～令和6年度の3年間

学校研究主題「子どもが学びを深めようとする授業づくり～効果的なICTの活用を通して～」

全教員がICTを効果的に活用した授業づくりを目指している。

ア 授業での活用

小学部	算数	<u>〇時〇分が分かる。</u> ※100点取るまで頑張る等粘り強く主体的に取り組む児童等がみられた。
小学部	国語	<u>町にある様々な標識等マークの意味を調べて、Keynote(プレゼンテーション)でまとめる。</u>
中学部	外国語	<u>Drop Tapで、今日の気分についてやりとりをする。</u> <u>入れたいお好み焼きのトッピングの英単語（発音）を調べる。</u>
中学部	理科	<u>風の強さを変え、車が動く距離を調べる。</u>



全体として、児童生徒がiPadをいつも使っている様子が見られ、QRコードからワークシートをダウンロードしたり、音声入力、かな入力等自分で入力方法を選択したり、画像等を取り込んだり、主体的に活用している様子がみられた。

<内容>

① 県立新庄養護学校の実践

イ 学校全体での活用

- ① 作成した各種マニュアルをGoogleドライブ上で共有することで、職員がiPadで、いつでも閲覧
- ② 作成した教材をGoogleドライブ上で共有、気軽に転用
- ③ 児童生徒会の委員会や授業等で作成した動画、学校行事の動画等をQRコード化廊下掲示し、児童生徒や学校に来た保護者等が見ることができる

② 県立ゆきわり養護学校の実践

障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するために、視線入力装置を用いた授業

- ① 視線入力装置を使った文字入力
- ② 視線入力装置やホッペタッチスイッチを活用し、絵を描く

※ 2校の実践報告書を教育センターホームページに掲載



<概要>

ICTの活用普及のため、センターホームページ掲載

<内容>

- ① 全特別支援学校参加 ICT活用実践報告会 教育局特別支援教育課主催参加（1月19日）
- ② 各校ICT活用実践報告書を一覧化 ホームページに掲載予定 教育局特別支援教育課

特別支援学校における ICT 活用の実践一覧

	実践事例（学校名）	障がい種	学部学年	教科等	主要使用機器	活用場面									
						A1 教員による 教材の提示	B1 個に応じる 学習	B2 調査活動	B3 思考を深め る学習	B4 表現・制作	B5 家庭学習	C1 発表や 話し合い	C2 協働での 意見整理	C3 協働制作	C4 学校の壁を 越えた学習
1	情報機器を活用し、SDGsの全容を調べる（県立山形盲学校）	視覚障がい	高等部3年	地学基礎	スマートフォン 教師用iPad			SDGsを調べる			SDGsの取組例を自分のスマホで調べる	教員と話し合いをする			
2	情報機器を活用し、単語に用いられている漢字と意味の違いを理解する（県立山形盲学校）	視覚障がい	高等部3年	現代文B	スマートフォン モバイルルーター		同音異義語を調べ、違いをノートにまとめる	同音異義語を調べ、違いをノートにまとめる	同音異義語を用いた例文を考える						
3	Keynoteとプロジェクターを活用した「かげシアター」で遊ぶ（県立鶴岡養護学校）	知的障がい	小学部1・2年	生活単元学習	プロジェクター iPad	いろいろな画面を映す				画面に合わせて、自分の影やペープサートを動かして遊ぶ					
4	GIGA端末を活用し、始業式を行う（県立米沢養護学校長井校）	知的障がい	小学部 中学部	特別活動	配信用PC iPad テレビモニター	始業式で「校長先生の話」等を聞く	各自、発表の仕方や姿勢等を確認する					発表をする			
5	Web会議サービスを活用し、居住地校の友達と交流をする（県立楯岡特別支援学校寒河江校）	知的障がい	小学部4年	生活単元学習	Apple TV iPad	活動の流れを提示する	約束や頑張ること、発表の仕方について確認する					発表をする			相手校と発表し合う
6	Pagesやカメラ機能を使って、チラシやメッセージカードを作る（県立酒田特別支援学校）	知的障がい	中学部3年	生活単元学習	iPad		写真を選定する	画像をクラウドへアップロードする	レイアウトを考える	チラシとメッセージカードを作成する					
7	アプリを使って、クリスマスカードを作る（県立村山特別支援学校）	知的障がい	中学部3年	生活単元学習	テレビ iPad	テレビで見本を提示する	カードで使う背景を自分で選ぶ メッセージを選ぶ				写真を撮ったり編集したりしてカードを作る				

図 参考 令和3年度各特別支援学校におけるICT活用の実践一覧



教育相談・不登校対策 におけるICT活用

○佐藤 勝 指導主事
菅原 航平 指導主事

<概要>

視察等をととした教育相談・不登校対策における先進的取組の把握

県教育センター内 不登校児童生徒支援センター（roomF）立ち上げ1年目

令和5年9月29日 取材

<事業内容>

『オンラインを活用した学習相談や子ども同士の交流支援等、学校等とは異なる新たな居場所づくり』

- ・在籍児童生徒数 小学生3名、中学生12名、計15名（9月時点）
- ・令和5年度モデル地区の福島市、会津美里町の小中学校に通う不登校児童生徒を対象

<オンライン支援>

- ・Googleクラスルームで連絡、Meet授業（火～金 40分×4）
- ・出席等フィードバックは月1回、所属校の出席扱いは一任
- ・オンラインにより
 - ①学習相談、学習支援
 - ②児童生徒同士の交流支援※
 - ③外部機関コンテンツ活用による学習、交流支援※殆どの児童生徒はカメラマイクoffでチャットで交流
- ・支援にあたり下記を実施
 - ①アセスメント実施
 - ②個別サポート計画作成
 - ③個別サポート計画に基づく個別支援に関わる相談
 - ④児童生徒と相談した個別時間割の作成支援
 - ⑤目標に向けた振返実施と次の段階の目標設定支援

- ・運営の参考、相談として広島県SCHOOL “S”



オンライン配信部屋



オンライン授業の様子

<スペシャルサポートルーム運営支援>

- ・24校（小：4校、中：20校）に、集団になじめない児童生徒の居場所となるようSSRを設置。
- ・教員等と定期的にオンラインミーティング8・10月

<担当職員>

R5 初年度：リーダー1名

長期研究員2名（中学校籍・小学校籍）
（福島県教育庁義務教育課
主任指導主事1名・指導主事1名）



広島県教育委員会個別最適な学び担当不登校支援センター
県教育支援センター教育支援業務（愛称：SCHOOL“S”） 令和4年度～
環境を一新するとともにオンラインでつながる機器を整備してリニューアル

令和5年12月24日 0L取材

<事業内容>

『不登校等児童生徒にとって安全・安心できる居場所であり、成長できる場として提供し、社会的自立を目指す』

利用登録者数（R5.11月末） 小学生124名 中学生106名 計230名
平均利用者数（R5.10月実績） 1日平均約50名（来室：約30名／オンライン：約20名）



オンライン配信の様子

開設日（火曜日～金曜日）

1日：45分×3コマ

時間割は
児童生徒が
自己決定

オンラインによる利用

※zoomを活用（自宅等から）

- ・学習アプリの活用
- ・指導主事等によるプログラム配信
- ・大学等専門機関やNPO法人等のコンテンツの活用 など
- ※ 週に何回か、来室による利用も可能

来室による利用

（多目的ルーム・学習ルーム等にて）

- ・教科書や問題集による各教科等の学習
- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・体験的な活動（農作業・調理実習・スポーツなど）
- ・探究的な活動 など
- ※ 来室時にオンラインを利用することも可能

- Google Classroom：連絡・提出
- 利用状況：月1回学校へフィードバック

※ 出席扱いとは所属校の校長が判断

オンライン学びプログラム オンラインクラブ活動

- ※ SCHOOL“S”からだけではなく、県内各小中学校から参加が可能
- ※ 各月3回程度実施

（実践例）

- ・ 海外（ギリシャ・モロッコなど）からのライブ中継
- ・ オンライン修学旅行（熊本城・厳島神社など）
- ・ 東京国立博物館・福井県立恐竜博物館
- ・ 地域のレストラン
- ・ 進路説明会
- ・ イラストクラブ/押しクイズ など

※各回の担当者が自分の得意分野やつながりを生かして講師等を依頼

<組織と担当職員>

●組織

（ ）内は設置年度

広島県教育委員会学びの変革推進部一個別別最適な学び担当（R1）
一不登校支援センター（R3）一SCHOOL“S”分室（R4）

●担当職員（センター長1名・指導主事12名・SSWSV1名※兼務）

R5 SCHOOL“S” 常駐指導主事：5名／学校訪問担当指導主事：7名

前
所
属

義務教育指導課（1）・豊かな心と身体育成課（1）
高校教育指導課（1）・各教育事務所・支所（2）
教育センター（3）・学校（4）・文科省研修派遣（1）

R4 SCHOOL“S” 常駐指導主事：3名／学校訪問担当指導主事：9名

他県の状況

	事業名	担当課	キーワード
埼玉県	Growth	さいたま市教育委員会 学校教育部 総合教育相談室 不登校等児童生徒支援係 不登校等児童生徒支援センターR4.4	0L学習指導、 メタバース
三重県	オンラインの居場所	教育委員会生徒指導課不登校支援班	中高生、 メタバース、 ZOOM、体験活動
熊本市	フレンドリーオンライン バーチャル教室（メタバース）	熊本市教育委員会総合支援課R4.4～	0L学習支援 NTTCom 「NeWorkR」
愛媛県	メタサポセンター メタサポキャンパス	愛媛県教育支援センター （総合教育センター内設置R5.4）	メタバース、 小中学校60名



- 子供たち同士のふれあいの場（居場所）、学びの興味関心を引き出す場としてオンラインでのプログラムを実施
- 施設外の中継授業や外部講師など、「外」を意識したプログラム
- 運営等において、他県の実践や情報について積極的に共有
- 両県、“LEARN in ○○”を実施。外、学び、繋がり、体験
【東京大学先端科学技術研究センターとの連携】
- スペシャルサポートルーム設置校への支援

- ICTに関する研究を始めた令和3年度と比較すると、
県内全体でICTの活用は進んでいる
一方で、**教員間**格差・**学校間**格差がみられるのではないか
- △**教員間**格差の例
- ・**教科**等におけるICT活用の有無
 - ・ICT活用度合いの**理論**(SAMRモデル等)の**理解**と**深まり**が有るか無いか→**生徒が主語**となる教育へ
- △**学校間**格差の例
- ・**日常的**なICT活用の有無
 - ・**学校全体**でのICT活用か、**特定の教員**に留まるICT活用か
- 生成系**AI**・**教育データの利活用**・**メタバース**等新たなキーワードの登場や、**遠隔授業**等これまであったICT活用の利用拡大

県立高等学校におけるICT活用

- 県ICT教育推進拠点校の後継事業における運営や校内研修、公開授業
- 遠隔授業の試行・研究やA Iパイロット校に関する調査・研究や出前サポート

教科におけるICT活用

- 学校マネジメント講座における、学校DX講座との連携
- 県内や県外問わず文部科学省リーディングDXスクール先進的実践事例の調査研究
例. ICTを活用した「方法選択型探究学習」

特別支援教育におけるICT活用

- 学校全体で取り組んでいる特別支援学校と連携 特支版「情報活用能力目標リスト」構築など
- 全基本研修でICT活用事例紹介とICTを活用した授業づくり演習実施

教育相談・不登校対策におけるICT活用

- 他県オンラインプログラム実践事例調査
埼玉県“Growth” … 小学校・中学校・高等学校における学習支援等
愛媛県“メタサポキャンパス” … メタバースの取組等

その他：教育データ利活用

- Google Workspace for Education Plus（高校教育課予算計上中）等による
教育データ（スタディ・ログ、アシスト・ログ等）利活用の調査・研究

これらの取組等をとおして、
ICT活用報告等作成、HP掲載、周知、研修との往還を図る

以上で報告を終わります。
ご清聴ありがとうございました。